

教育学部 学生のみなさん、おはようございます。学部長の今津屋直子です。

入学式の式典が中止となり 1 年生のみなさんにはご挨拶する機会がありませんでしたが、ようやくお祝いをお伝えできます。1 年生の皆さんのご入学を教職員一同、心より歓迎しています。聖和キャンパスでみなさんに会える日が早く訪れることを願って、楽しみに待っています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、世界は、日本は、そして我々が住む市町村はいま、感染の拡大という恐怖に向き合い、お互いの命を守るために人との接触を避け、行動を制限しなければならない毎日が続いています。本学においても新年度がスタートし、1 ヶ月が過ぎようとしていますが、対面授業の代わりにオンラインによる授業が始まっています。慣れないオンライン授業で、皆さんは不自由を感じているかもしれません。困ったことがありましたら、遠慮なく質問や意見を各担当教員へ寄せてください。

新型コロナの影響は、日常生活だけでなく、様々な行事・催事に及んでいます。私の住む京都の祇園祭の山鉾巡行も中止になりました。疫病退散を願って始まった祭りが、感染症の影響で中止になるというのは皮肉なことです。祭りには、伝染病の再来を排除し、犠牲になった人々の魂を鎮める意味が込められています。感染症は、世界の至るところで人類を何度も恐怖に陥れてきました。様々な感染症のなかにペストというネズミのような動物に由来する病気があります。若い頃、フランスのリヨンを旅した時に、その恐ろしい病気の歴史を知りました。欧州では 14 世紀にペストの流行が始まり、18 世紀まで断続的に流行しています。リヨンの市街が一望できるフルヴィエールの丘に聳えるノートルダム大聖堂を訪れた時のこと、この大聖堂は、17 世紀にリヨンで流行したペストに苦しむ人々が、その後感染症がおさまったことを記念して建てられた小さな教会に由来するそうです。街の人口の半数もの人々が犠牲になったという話を聞いて、フルヴィエールの丘からリヨンの街を見下ろした時、21 世紀に生きる私にも、その苦難によって色をなくした中世の街並みが想像できるくらいでした。ペストの恐ろしさは、今も人々に語り継がれています。しかし、実際に目の前に広がる街並みは、建物の煉瓦色に、丘陵や河川の緑、そして空の青さに美しく、輝いていました。とてもペストに苦しんだ街には思えません。それだけ、ペスト流行後の人間

の回復力と街の繁栄は凄いものだと思いました。ちなみに、ペストの病原菌を発見したのは、日本人の北里柴三郎です。北里柴三郎は日本の細菌学の父と呼ばれ、感染症医学の発展に貢献した方です。感染症の恐怖は人々に、公衆衛生の重要性を認識させ、行動変容をもたらしながら、収束してきた歴史があります。「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む（ローマの信徒への手紙 5.3-4）」と聖書にあります。いまは困難に耐える忍耐の時であり、活動は制限されていますが、勉強や読書に使う時間は増えていることと思います。今の皆さんの時間は将来につながっていることを覚えて、できることをコツコツと積みあげていってください。

本学の校章は新月（三日月）です。その意味は、「私たちは今あらゆる面で不完全なものであるが、新月が次第に膨らんで満月になるように絶えず向上していきたいという願い」、「月は自ら光を放つのではなく、太陽の光を受けて暗い夜を照らすように、私たちは神の恵みを受けてそれを地上に伝え、世の中を明るくしていきたいという願い」を表しています。皆さんが、このメッセージを読むのは、三日月の夜 4 月 26 日のあとになりますが、時には夜空を見上げて月を眺めてみてください。三日月に、満月に向かう自分自身を重ね、励まされることでしょう。

最後にもう一度申しますが、困ったことがあったら遠慮なく、教職員にご相談ください。

（教育学部長 今津屋 直子）

聖書のことば：フィリピの信徒への手紙 4 章 8 節

「終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。」

